

## アドバンスながうらの企画提案型譲渡に係る保護者説明会での主な御意見 (概要)

※→以下は県・佑啓会からの回答  
(H27. 7. 19)

(社会福祉法人佑啓会 理事長から)

・自分も昭和50年代前半に社会福祉事業団に就職し、更生園・養育園で10年以上お世話になった。当時、入所施設が足りないとの要望があり、地元施設を建設すべく退職し、平成5年にふる里学舎を開設、23年目を迎えている。当法人には事業団出身者が10数名おり、今回、お役に立てればと応募した経緯がある。

・保護者の皆様が不安に駆られていることは十分承知しており、時間をかけて不安を払拭したい。

○放課後等デイサービス「虹の子」では、芋掘りなどいろいろな行事を行って来ており、助かっている。譲渡後も、同様の行事を行ってもらえるか。

→基本的に引き継ぎ、全部やりたいと思っているので、御安心いただきたい。  
(佑啓会)

○保護者に対し、寄付金の要求があるか。

→寄付金の強要は、一切ない。当法人は、スタート当時も一切寄付を受けずに運営してきた。(佑啓会)

○メインになる医療機関はどこか。施設内に診療所のようなものを常設する予定はあるか。

→当法人には精神科や内科それぞれに嘱託医・協力医がいる。主に受診しているのは市原市内の複数の医療機関で、提携してそれぞれの利用者に合った医療機関を選んでいる。施設内に医師は常駐していないが、外部と連携していく。

最初に開設した施設は23年経過し、利用者も40代～50代になっていることから、通院機会が増えている。信頼できる医療機関の開拓は重要と考えている。(佑啓会)

○サービスの利用金額は、現在と同様か。

また、入所者預り金については3～4か月に一回、使用した項目ごとの金額と残高証明書が事業団から送付されているが、その処理はどうなるか。

→利用者の負担額は法に基づく1割負担であり、通常、どの施設を利用してもほぼ変わらないだろう。

預り金は、毎月、会計担当者が締め、チェックしている。また4か月に一回、明細を付けて保護者や後見人に会計報告をする。保護者も後見人もいない場合

は、家族会の方に監査してもらっている。(佑啓会)

○佑啓会では幅広く事業を展開しているが、法人内の職員の定期異動は、どのくらいの頻度で行われているか。

→適材適所を基本としており、同じところで10年勤める職員もいれば、1年で交代する職員もいる。

正規職員は法人で一括採用しており、職員本人(の能力)を伸ばすこと、利用者の生活を向上させることの二点を基本に、異動させている。入所施設だけ、就労支援だけ、というのではなく、オールマイティの職員を育てようというのが基本。

契約・パート職員については、専門性を活かして、同じところで10数年勤めてもらっている。(佑啓会)

○長期間同じ部署にいと、マンネリ化し、「長年こういうやり方をしているのだからいいだろう」と間違った方向に行くこともある。人事交流をして、不都合なところは改め、良いところは広げてほしい。子どもを預けるからには、預かる側にはしっかりした体制を組み、対応してもらわないと不安がある。

アドバンスながうらが培ってきた事業内容もある。ふる里学舎の方針もあると思うが、引き継いでほしい。

○譲渡の条件として、「職員の継続雇用について考慮の上、企画提案すること」とあるが、どういう意味か。

→雇用については、今後、事業団と佑啓会で協議していくことになるが、企画提案に当たり、雇用の継続を図る考えがあるか、給与などの条件はどうか、といったことを記載してもらった。(県)

○3月末で事業団との利用契約が切れるとのことだが、今後のスケジュールや、家族としてやらなければならない注意点などを教えてほしい。

→8月以降、説明会があると思う。事業団・佑啓会と協議し、具体的なスケジュールを示したい。(県)

○アドバンスながうらは、佑啓会の運営となるということか。

→事業、建物については佑啓会に譲渡。土地については鑑定評価が済み次第、譲渡に向けて協議する。(県)

○譲渡の条件として10年は社会福祉事業の用に供するとされている。10年経過後のことについて県に問い合わせたところ、利用者が困らないよう譲渡先を指導(依頼)するとの回答だったが、それでよいか。

→入所施設においては現に生活されている人がおり、引き続き運営してくれるよう指導する。(県)

○正直な感想としては、佑啓会が県から頼まれて、仕方なく引き受けるという経緯かと感じた。「災い転じて福となる」ではないが、県があれこれ口を出すより、民間でしっかりやってくれた方が却っていいかもしれない。

佑啓会には400名の職員がいるとのことで、理事長が素晴らしい訓示をしても、400通りの受け取り方がある。どのように職員のレベルを上げていくか。組織が大き過ぎる弊害もあるだろう。

佑啓会の家族会（の役員）は、各施設からの代表者で構成される形なのか。今後、我々が発言できる場を作ってもらえないか。移行期間が過ぎたら、現行制度の中に組み込まれることも仕方がないが、当初は家族が意見を言える場を作ってほしい。

→佑啓会・事業団と協議し、引継ぎに当たっては保護者が不安を抱かれることのないようにしたい。（県）

○代宿地域支援センター等の譲渡先は来週から募集するとのことだが、佑啓会がまた手を挙げることもあるのか。別の事業者が決まったらどうなるのか。

→まだ公募していないため、何とも言えないが、アドバンスながうらや袖ヶ浦福祉センター、また周辺事業者との連携なども選定の基準になると思う。（県）

（社会福祉法人千葉県社会福祉事業団 理事長から）

・佑啓会と調整しながら、現在の利用者が困ることのないよう、最善を尽くしていきたい。保護者への説明の場、意見交換の場についても調整していく。

・契約やサービス利用計画に係る手続も、保護者にあまり負担をかけずに、4月1日を迎えられるようにしたい。

・事業団としてもかつて経験したことのない仕事であるが、皆様の思いを受け止めながら、4月1日に向けて全力を挙げていく。